

投稿 これ以上、高校生をクリアランス金属の利用促進に巻き込まないで！

● 全国の高校に広がる、クリアランス（CL）金属利用促進の動き

兵庫県の知人から、兵庫県でも、CL の利用促進の旗振り役に高校生が使われているとの情報をもらった。元々、福井県内の福井南高校の生徒が、原子力をテーマの探究学習授業で、廃炉作業で出る放射性廃棄物のひとつ、CL 金属を使い、通学路の街灯を考案したことに始まる。その活動に共感した全国の高校で、同様な街灯の設置と CL 金属の理解促進活動が進められている。兵庫県の高校を取材したニュースでは「電力の供給地と消費地の高校生、共に考える原発のごみ問題」と特集していた。その検索画面のすぐ傍に、12/3 の FBC ニュースで、福井県の高校生を取材した「廃炉時代の課題に若者たちが向き合う クリアランス金属でハンガーやティッシュボックスを高校生が制作 資源の有効活用へ」という特集を見つけた（必見）。<https://x.gd/q66fX>

福井南高校から始まった活動は、CL 金属の普及に取り組む県の支援を受け 4 校に増えていた。インタビューで「安全性が不確かな面があったので、実際に触れて、安全性を理解してもらえることを第一において、ハンガーにした」と答える高校生。街灯ならまだしも、わざわざ身近な物への加工を選ぶとは。福井市内の 3 校が CL 金属製のハンガー製作に挑戦し、敦賀市の工業高校は、ふげんの CL 金属でティッシュボックスを製作していた。その製作過程に私は衝撃を受けた。高校生が、マスクもせずにサンダーで、ハンガーの表面を削って仕上げていたのだ。細かな CL 金属の粉を吸い込んで内部被曝しないかととても心配だった。CL 金属の利用促進を使命感さえ感じながら取り組んでいる高校生の姿は、ニュース性があり、マスコミが取り上げやすい。福井県やエネ庁等（国）では、高校生のこれらの取り組みが積極的に紹介されている。なぜ高校生が廃炉の円滑化のために駆り出されなければいけないのか？ 校のごみ問題をテーマにするのであれば、校のごみをこれ以上増やさない算段が本筋だろう。被曝を伴う廃炉措置は、急ぐ必要は無い。

● 「廃炉ビジネス」に沸く福井県

原発銀座若狭の多くの原発は、廃炉措置の対象だ。廃炉に伴って出る様々な低レベル放射性廃棄物は、事業者にはコストや未解決の処分先の面でも頭の痛い問題だ。放射性廃棄物の減量化が急務の事業者の思惑で、2005 年「原子力規制法」によって CL 制度が制定された。国が決めた人体への影響を無視できるレベル（年間 0.01mSv、基準は核種毎）以下をリサイクルできるとしたが、米国科学アカデミー委員会の「被曝のリスクは低線量にいたるまで直線的に存在し、しきい値はない。最小限の被曝であっても、人類に対して危険を及ぼす可能性がある。」という報告書は重要な指摘だ。制度導入時、将来の環境や健康への懸念から、全国的な市民運動によって、制度上は、①何に使おうが自由で（例えばフライパンや飲用缶などにも）②追跡記録の表示の義務付けもなかったのを、電気事業連合会の約束で、「制度が定着するまでの間 ①業界内で再生利用 ②搬出ルートを把握」とさせた経緯がある。これまでは、この自主ルールの下、原発サイト内や原発 PR 館内のベンチやテーブルなどに鋳造されるのが一般的であった。

しかし、第 7 次エネルギー基本計画に、CL 製品の更なる再利用先の拡大と早期のフリーリリースの実現が明記された。その先陣を切って福井県は「CL の再利用をビジネスチャンスに」とし、国内初の CL 集中処理事業を、県主体の事業体で進めようとしている。今年 8 月、建設予定地の敦賀市に、集中処理事業の計画立案をする新会社が設立され「廃炉ビジネスを地域の発展につなげたい」と社長は述べた。国、県や事業者は、何としても「制度の定着」を既成事実化したいのだ。そんな原子力ムラのエゴに、これ以上高校生を巻き込まないでほしい。（おい町 M）